

10月2日～ 御嶽山

中田 繁男

山名	御嶽山 (百名山)	山行名	個人山行
ルート	1日目：黒沢口登山口 (飯森高原駅) →行場山荘→女人堂→石室山荘 (泊) 2日目：石室山荘→覚明堂→二ノ池分岐→御嶽山頂→二ノ池分岐→サイノ河原→摩利支天山→サイノ河原→石室山荘→女人堂→行場山荘→飯森高原駅→鹿の瀬駅 (ロープウェイ)		
山行日	2021年10月2日・3日	天候	晴れ
参加者	リーダー：中田 サブリーダー：秋山 男性：西川 (洋)、土岐 女性：染矢、徳田、北條、蒲田 合計：8名		

コースタイム					
1日目		時：分	2日目		時：分
京田辺市	集	6:00	石室山荘	着	
	発	6:15		発	5:50
鹿の瀬 ロープウェイ駅	着	10:10	御嶽山	着	6:33
	発	10:45		発	7:20
飯森高原駅 昼食	着	11:30	賽の河原	着	8:05
	発	12:30		発	
女人堂	着	13:55	摩利支天山	着	9:00
	発			発	
石室山荘 (泊)	着	15:30	飯森高原駅	着	12:55
	発			発	13:05

沈黙を守って来た御嶽山ですが、7年前の2014年9月27日11時52分突如として大噴火を起こし、山頂近くの登山者の内58名死亡、5名が今だ行方不明という大惨事を招きました。私たち山友会秋の市民登山を同日に実施していました。幸い飯森高原駅で遭遇して慌ててロープウェイで5号目の麓まで下山しました。途中でのゴンドラの窓に水蒸気噴火灰がどんどん届け始め真っ黒な中の不安を抱えて着いた時の安堵感は忘れません。下界は水墨画に変身していて、登り始めた前との落差が大きかったことが思い出されます。

今回は前回のリベンジする3名を含めて、同じコースを登ることにしました。御嶽ロープウェイの山頂駅七合目で降りて昼食としました。準備体操を済ませ御嶽山を遠望して10分で行場山荘、針葉樹林帯から帯広葉樹林帯に変わったあたりから背の高い笹が生い茂る登山道を進んで1時間位で八合目女人堂 (休憩小屋) に着いた。若いハイカーが沢山休憩中を横目にハイマツ帯の鳥居を抜け次第にザレた登山道の山頂から下山する沢山の若い登山者が声かけてくる。元気をもらって辺りはオンタデ群落が見える。もう山頂方に山小屋が見え始め大きな岩がゴロゴロして息が上がりなかなか着けない。やっと石室山荘に到着した。早速おかみさんから熱いお茶とお菓子で出迎えて頂き感謝です。山頂までピストン可能と思いかけると冷たい雹が降りてして断念した。石室山荘の中は少し傾きがあり、窓が完全に締め切らず室内は寒いです。そんな中6時からの夕食は珍しい和食、私の好みの味付けで美味しい！！大層ですが今までの小屋での食事が一番でした。室内には石油ストーブ以外にこたつが設置されていて、早速みんな潜り込み楽しいお喋りを楽しめた。夜消灯8時頃の満天の星空を鑑賞。そして朝のご来光が山小屋から鑑賞出来ました。山小屋から朝日を浴びて覚明堂の上の二ノ池分岐から岩だらけの山頂が見えた。剣ヶ峰山頂部には慰霊碑に避難用施設が建てられています。真下には火口が静かに噴火の様子が感じられて、嘘のような光景に暫し火口巡りの痛々しい岩山、黒い溶岩塊が沈静化した現在に思いを馳せます。13日には剣ヶ峰への入山規制が始まります。火口、王滝付近等は規制区域で行けません。分岐点まで戻り山頂部から火山灰で埋まった一ノ池、二の池の横を通り、少しフワフワした池を感触して涸沢のような景色が出てきた。賽の河原。快晴で青空しか見えない山々に囲まれた場所は気持ちよく紅葉樹林があれば涸沢と同じです。更に進んで左手の岩場をくぐり抜けて岩だけの摩利支天山の山頂に到着。山頂部から青緑した日本最深の高山湖三の池がハッキリ確認出来ました。前日に登って来た登山道を折り返し下山です。2日間とも雲一つ無い快晴は初体験で、参加した皆さんから楽しい声が聞かれたのは嬉しい山行でした。お疲れ様でした。

ヒヤリハット なし

剣ヶ峰登頂まで25年

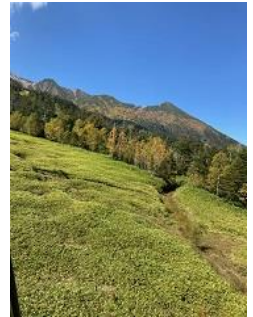
染矢 つや子

25年前の市民秋山、入院中だった母が3日前に71歳で亡くなりキャンセルしました。快晴で「三段紅葉が素晴らしかった」と聞きました。

数年後、夜行バス日帰りツアーに参加 王滝登山口からでしたが、早朝の強い雨 車内で1時間待機 雨具着用で登山開始、1時間で引き返し温泉だけ入って帰る。

噴火から3年後、もう少し頑張れば100名山達成と急に思い立ち、2017年10月ツアー参加 今回と同じコース その当時の頂上は「摩利支天山」でした。当然「剣ヶ峰」方向には立ち入り禁止の標識にロープが張られ重々しく感じました。またまた生憎の雨、「五の池山荘」に荷物を置き「継子岳」ピストン。標高の高い所に弱い私は一足先に小屋に入る。翌日は晴れ 濁河温泉に下山し温泉に入り帰京。

今回「剣ヶ峰」に登れることがわかりワクワクする。2日間の快晴は今までの運の悪さを一気に吹っ飛ばしてくれました。これ以上何を望むか?? 見上げる空の色は言葉では言い表せないくらい素晴らしい! もう登頂は無理だと思っていた「剣ヶ峰」すべてに感謝しかありません。



蒲田 史

ロープウェイ乗り場から見える御嶽山はとても雄大で素晴らしい景色でした。そしてロープウェイで一気に標高 2150mへ。歩き始めると、標高が上がるにつれて木々が低くなり、山頂が近づき、嬉しさいっぱいでした。いったん荷物を置き、山頂を目指したところでみぞれが降りだし引き返すことに。先ほどまでの青空がうそのようです。山の天気の変わりやすさを感じました。満天の星空を見たくて、夜8時過ぎ外へ出ました。期待以上です。次の日は剣ヶ峰、摩利支天山と登ります。山頂からは噴火口も見えます。慰霊碑に手を合わせ、今回無事に来れたことを感謝しました。摩利支天へはリュック、ストックを置き山頂まで行きます。道が狭く最後は少しですが岩登り。山頂から来た道を振り返るとその稜線がまた美しい。青空、山の稜線、ところどころの紅葉、三の池の緑色、全てが美しく素晴らしい景色でした。



今回ここまで連れて来て下さり、ご一緒してくださった皆さま方、本当にお世話になりありがとうございました。

秋山正子

10月2日から3日に7年ぶりの御嶽山に行ってきました。

前回はロープウェイの7合目駅で折り返しになり、ほとんど登っていなかったのが初めての御嶽山です。

思ったよりも急登で空気の薄さと歩きにくい足場で、へこみかけていましたが、天気に恵まれ、最近見たことのない青空とブナやダケカンバの黄色い紅葉とナナカマドの赤い実に慰められ、励まされ、石室山荘に到着。

3000メートルの高山はやはり慣れることがなく呼吸の息苦しさや高山病に歯をくいしばり登りました。

宿の夕飯は年寄り向きに品数が多く、脂っこいものでなかったのでうれしかったです。

次の日は5時45分に出発し、剣ヶ峰と摩利支天の二つのピークに登れてよかったです。この日も好天に恵まれ、賽の河原と群青色の空のコントラストが素晴らしく、つらい思いをして登ったご褒美やなどみんなで喜びました。

計画していただいた中田さんと運転していただいたドライバーさん、その他のみなさん、ありがとうございました。記憶に残るすてきな山行でした。



